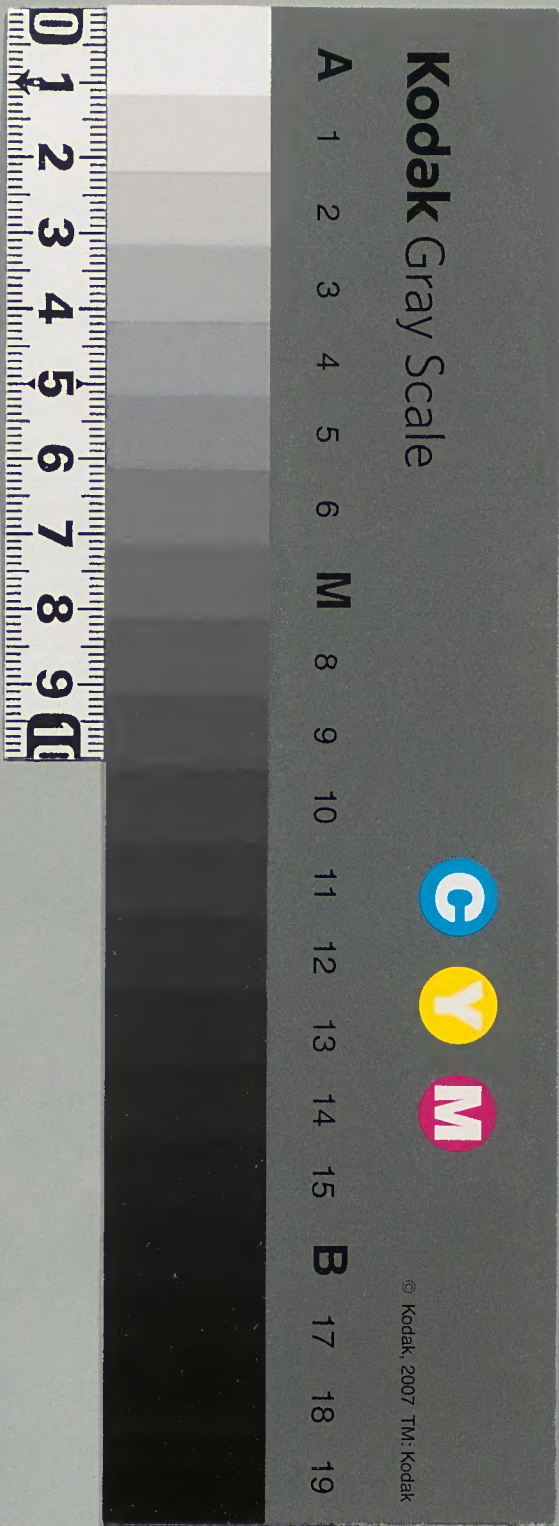
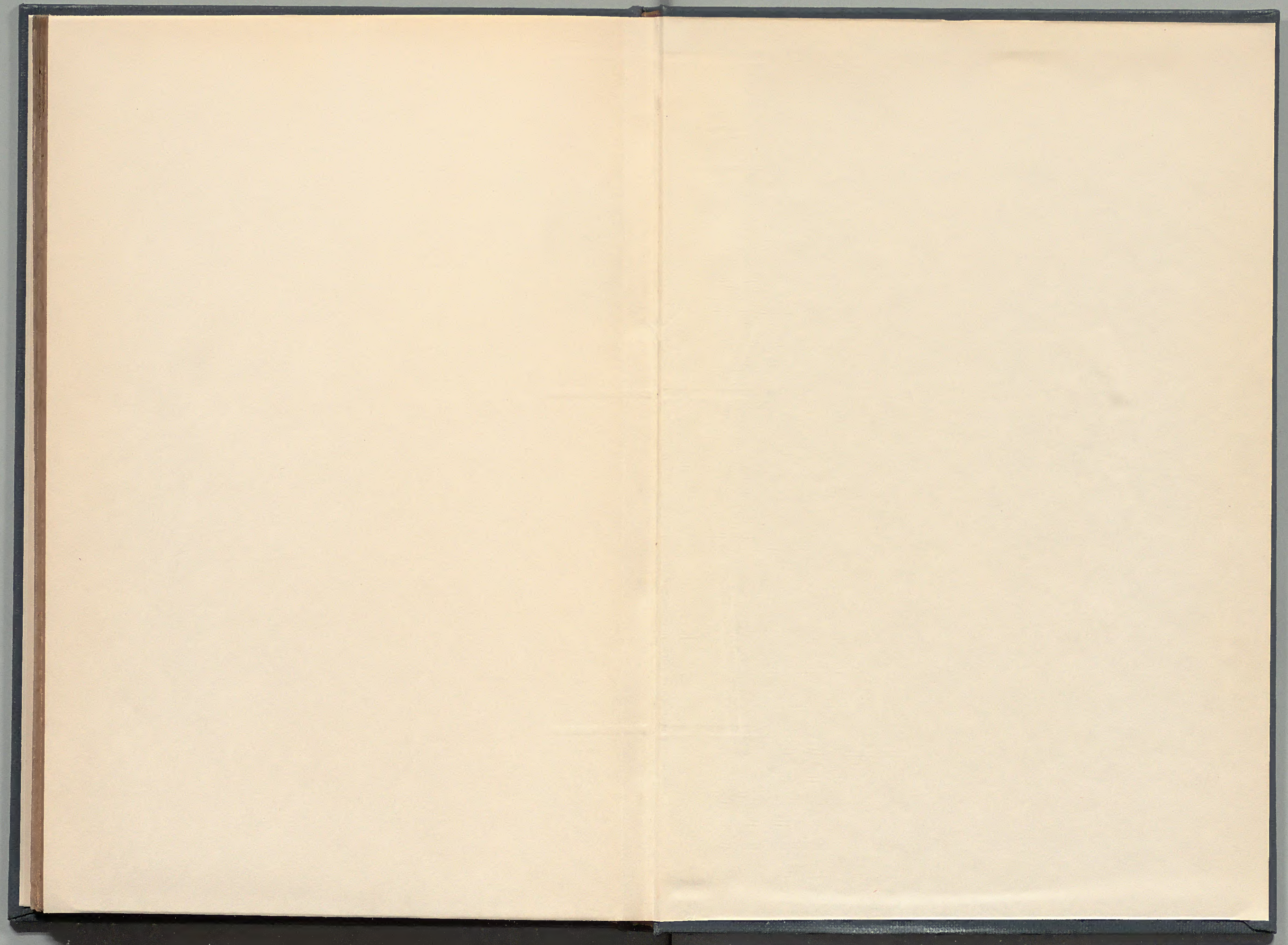


|                     |        |
|---------------------|--------|
| 国立公文書館<br>H22.12.26 |        |
| 分類                  | 財務省    |
|                     | 平成22年度 |
| 排架番号                | つくば書庫7 |
|                     | 7-31   |
|                     | 1577   |



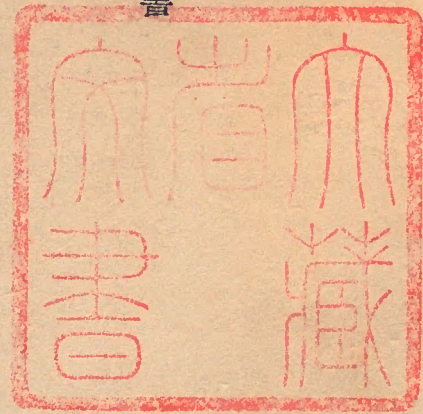


極秘

昭和十六年一月



支那ニ關スル特別參考書



理財局外事課

五三七六一五九  
76 / 42

支那ニ關スル特別參考書

目次

|                         |       |    |
|-------------------------|-------|----|
| 一、日滿支經濟建設要綱             | …………… | 一  |
| 二、對支經濟緊急對策              | …………… | 一二 |
| 三、新中央銀行設立ニ伴フ中支通貨處理ニ關スル件 | …………… | 一七 |
| 四、中央儲備銀行設立ニ關スル覺書        | …………… | 二三 |
| 五、中央儲備銀行細部指導暫行要領        | …………… | 三〇 |
| 六、中央儲備銀行法               | …………… | 三五 |
| 七、整理貨幣暫行辦法              | …………… | 五一 |
| 八、中央儲備銀行外匯基金管理委員會章程     | …………… | 五四 |

日滿支經濟建設要綱

昭和一九一〇三  
閣議決定

東亞ノ新秩序ヲ建設シ世界永遠ノ平和ヲ確保スヘキ皇國ノ使命ヲ具體  
的ニ達成スルタメニハ我國内體制革新ノ過程ト生活圈ノ擴大編成ノ過  
程トヲ綜合一體的ニ前進セシメ以テ國防國家ヲ速ニ完成スルヲ要ス從  
テ皇國ノ基本的經濟政策ハ次ノ三大過程ノ綜合計畫性ノ上ニ確立セラ  
ルコトヲ要ス

一、國民經濟ノ再編成ノ完成

二、自存圈ノ編成強化

三、東亞共榮圈ノ擴大編成

蓋シ生活圈擴大編成ノ爲ニハ皇國ノ國防並ニ地政學的地位ニ基キ日、  
滿、北支、蒙疆ノ地域及其ノ前進據點トシテ南支沿岸特定島嶼ヲ有機  
的一體タル自存圈トシテ政治、文化、經濟ノ綜合的結合ヲ強化編成ス  
ルト共ニ國防經濟ノ完成ヲ促進補完スル爲中南支、東南「アジヤ」及  
南方諸地域ヲ包含スル東亞共榮圈ヲ確立スルコトヲ要ス

而シテ經濟政策適用ノ方式ハ皇國ト生活圈内ニ於ケル國家又ハ地域及民族トノ結合ニ關スル根本政策ト調整シツツ夫々民族ノ生活段階ニ適應セシムル機特段ノ工夫創造ヲ要ス

### 第一 基本方針

- 一、日滿支經濟建設ノ目標ハ概ネ皇紀二千六百年迄ニ日滿支ヲ一環トスル自給自足的經濟態勢ヲ確立スルト共ニ東亞共榮圈ノ建設ヲ進シ以テ世界經濟ニ於ケル地位ヲ強化確立スルニ在リ
- 二、日滿支經濟建設ノ指導精神ハ八紘一字ノ大精神ニ基キ皇國ヲ中心トスル日滿支三國ノ一體的協同ニ依リ國防經濟ヲ確立シ共存共榮、國民全般ノ福利ヲ増進スルニ在リ
- 三、皇國ハ日滿支經濟建設ノ起動力タルニ鑑ミ國民ノ氣魄ヲ昂揚シ國內態勢ヲ革新シ國力ノ擴充ニ力メ以テ滿支ノ經濟建設ヲ指導育成ス特ニ科學、技術ノ劃期的振興ヲ圖リ又先驅工業ノ開拓ニ任ス

一、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス  
 二、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス  
 三、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス  
 四、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス  
 五、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス  
 六、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス  
 七、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス  
 八、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス  
 九、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス  
 十、日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス

四 滿洲國ハ皇國トノ不可分關係ヲ益々鞏化シツツ自存圈ノ確立ヲ主眼  
 トシ重要基礎産業ノ急速ナル整備發展ヲ圖ル  
 五 支那ハ日滿ト協力シ資源ノ開發、經濟ノ復興ヲ圖ル而シテ北支蒙  
 疆ハ自存圈ノ確立ヲ主眼トシ交通及重要産業ヲ開發シ中南支ハ物  
 資交易ノ圓滑、重要資源<sup>源</sup>ノ開發ニ重點ヲ置キ東亞共榮圈ノ確立ニ  
 寄與ス  
 但シ海南島等南支沿岸特定島嶼ハ自存圈ノ前進據點トシテ特ニ其  
 ノ開發ニ努ム  
 六 自存圈内ニ於ケル國防物資ノ組織的連帶貯藏ヲ圖リ以テ國防力ノ  
 保全ニ努ム  
 七 日滿支經濟ノ綜合建設計畫ノ遂行ヲ調整促進スル爲日滿支經濟ノ  
 綜合計畫機構ス

日滿支三國ノ産業分野、勞務、金融、貿易、交通等ノ政策ニ關スル基  
本方針ハ左ノ如ク概定ス

一、産業配分

イ、皇國ハ今後主トシテ精密工業、機械工業、兵器工業ニ重點ヲ置  
キ之カ劃期的振興ヲ圖リ、其ノ他ノ重工業、化學工業及鑛業ハ自  
存國內ニ於テ適地適業ノ主旨ニ依リ之ヲ振興ス

輕工業就中纖維工業、雜工業ハ計畫的ニ整理シ逐次之カ大陸移動  
ヲ行フト共ニ大陸資本ヘノ移管ヲ考慮ス

農業ニ關シテハ土地制度ヲ改革シ經營ノ科學的刷新ヲ爲シ農家ノ  
安定向上ヲ圖リ國民民主食ヲ確保スルト共ニ農村人口ノ定有ヲ策ス

水産業ハ依然世界第一位ヲ保持スル如ク益々其ノ發展ヲ圖ル

林政ノ統一刷新ヲ圖リ森林資源ノ合理的活用ト其ノ保續ヲ圖ル

ロ、滿洲國ハ今後特ニ鑛業及電氣事業ノ劃期的振興ヲ圖リ日滿間適  
地適業ノ主旨ニ依リ重工業及化學工業ノ振興ニ力ムルト共ニ一



重工業原材料ヲ皇國ニ供給ス尙機械工業並兵器工業ハ國防上ノ要  
 求ヲ充足スル限度ニ於テ之ヲ興ス  
 輕工業ハ國內ノ需要ニ適應シ之ヲ興ス  
 農業ニ付テハ其ノ日滿支ノ食料飼料補給地タルト世界ニ對スル  
 特種農業資源ノ供源タルニ鑑ミ農地ノ開拓、農法ノ改善合理化ヲ  
 行ヒ徹底的ニ農産物ノ増産ヲ期ス  
 尙農業開發ニ當ツテハ皇國農業開拓民ノ入植ヲ促進シ、其ノ中核  
 タラシム  
 製鹽業、畜産並林業ニ付テモ石ニ併行シ之カ劃期的振興ヲ圖ル  
 支那ハ今後礦業、製鹽業ノ劃期的振興ヲ圖リ工業原料ノ大量生  
 産ヲ行ヒ日滿經濟建設ノ基礎確立ニ寄與スルト共ニ適地適業ノ主  
 旨ニ依リ一部重工業及化學工業ヲ建設シ日滿産業ヲ補強ス  
 輕工業ニ付テハ皇國産業ノ發展階梯ニ照應シツツ相互ノ調整ヲ圖  
 リ之カ土着資本ヲ中心トスル發展ヲ圖ル

重工業原材料ヲ皇國ニ供給ス尙機械工業並兵器工業ハ國防上ノ要  
 求ヲ充足スル限度ニ於テ之ヲ興ス  
 輕工業ハ國內ノ需要ニ適應シ之ヲ興ス  
 農業ニ付テハ其ノ日滿支ノ食料飼料補給地タルト世界ニ對スル  
 特種農業資源ノ供源タルニ鑑ミ農地ノ開拓、農法ノ改善合理化ヲ  
 行ヒ徹底的ニ農産物ノ増産ヲ期ス  
 尙農業開發ニ當ツテハ皇國農業開拓民ノ入植ヲ促進シ、其ノ中核  
 タラシム  
 製鹽業、畜産並林業ニ付テモ石ニ併行シ之カ劃期的振興ヲ圖ル  
 支那ハ今後礦業、製鹽業ノ劃期的振興ヲ圖リ工業原料ノ大量生  
 産ヲ行ヒ日滿經濟建設ノ基礎確立ニ寄與スルト共ニ適地適業ノ主  
 旨ニ依リ一部重工業及化學工業ヲ建設シ日滿産業ヲ補強ス  
 輕工業ニ付テハ皇國産業ノ發展階梯ニ照應シツツ相互ノ調整ヲ圖  
 リ之カ土着資本ヲ中心トスル發展ヲ圖ル

二、勞務

農業ニ付テハ特ニ基礎的施設ノ整備ニ力ヲ農業經營ノ改善、合理化ヲ圖リ國民主食ノ確保ニ力ムルト共ニ棉花及特産物ノ増産ヲ圖ル

國防經濟ニ於ケル國民ノ勞務及技術生産性ノ地位ノ重要性ニ鑑ミ勞務技術ノ體制ニ劃期的革新ヲ加フルト共ニ民族協同ノ基礎ノ上ニ日滿支勞務計畫ヲ確立シ立地的統制並ニ再配置ヲ爲ス

1. 皇國ハ勞務技術ノ新體制ヲ確立シ勞務者心身ノ練成、科學教育ノ振興、勞働生産性ノ高度化、技術者及技能者ノ養成ニ力ムルト共ニ滿支經濟建設ノ指導援助ヲナス

2. 滿洲國ハ産業開發ニ必要ナル技術者及技能者ヲ皇國ニ求ムルト共ニ自國內ニ於テモ之カ養成制度ヲ確立ス

内鮮人開拓民ノ計畫的入植ヲ圖ル、一般勞務者ニ付テハ北支勞務者ノ計畫的入植ヲ圖ルト共ニ國內ヨリノ充足方策ヲ確立シ特ニ顯

工業生産ニ於ケル勞務管理ノ刷新確立ニ努ム  
支那ハ産業開發竝ニ經濟復興ニ必要ナル技術者及技能者ヲ皇國ニ  
求ムルト共ニ自國內ニ於テモ之カ養成ニ努ム  
一般勞務者ニ付テハ其ノ安定向上ノ方策ヲ講スルト共ニ滿洲國產業  
開發ニ必要ナル供給ヲ爲ス

### 三、金融

國防經濟完遂ノ爲ニハ金融ノ基礎ヲ回收ノ確實性ニノミ置クコトナク  
國家トシテ所要ナル物資ノ質及量ノ確保ヲ可能ナラシムルコトヲ主眼  
トスル如クニ金融理念ノ轉換ヲ行フ  
イ、日滿支ヲ通スル産業計畫ニ照應シ之カ實施ヲ可能ナラシムル資金  
計畫ヲ樹立シ且之ヲ實行スヘキ金融機構ヲ整備ス  
ロ、今後技術ノ進歩産業分野ノ設定等ニ伴ヒ企業施設ノ轉換ヲ要スル  
モノ多カルヘキニ顧ミ又國防物資ノ組織的運搬貯藏ヲ行フニ應シテ

三、金融  
一、資金ノ調達ハ原則トシテ三國ノ蓄積ニ依ルコトトシ之カ爲各國  
ニ於ケル蓄積ノ増加及其ノ活用ヲ圖ル但シ今後當分ノ間國防生産  
力充實ノ爲メノ資金ハ皇國ヨリ之ヲ援助ス尙東亞新秩序建設ノ主  
旨ニ反セサル限り外國資本ノ利用ヲ圖ル  
二、外國爲替ニ付テハ之カ統制ノ目標ヲ海外拂ノ節約ノミニ置クコ  
トナク外國ヨリスル國防物資ノ獲得ヲ確保スルコトヲ目標トシ外  
國爲替資金ハ日滿兩國ハ共同ニ之ヲ運用シ支那ニ付テモ能フ限り  
日滿ト綜合的ニ運用スル如ク措置ス尙進ンテ皇國ヲ東亞共榮圈ノ  
金融及經濟ノ中心地タラシムル様施策ス  
ホ、日滿支三國間ニハ國際決濟上所要ノ協定ヲ爲シ三國經濟ノ互助  
連環性ヲ強化ス  
ヘ、支那ニ於ケル幣制ニ付テハ皇國ノ指導性ヲ保持スルコトヲ原則  
トシテ情勢ノ推移ニ應シテ善處ス

一、資金ノ調達ハ原則トシテ三國ノ蓄積ニ依ルコトトシ之カ爲各國  
ニ於ケル蓄積ノ増加及其ノ活用ヲ圖ル但シ今後當分ノ間國防生産  
力充實ノ爲メノ資金ハ皇國ヨリ之ヲ援助ス尙東亞新秩序建設ノ主  
旨ニ反セサル限り外國資本ノ利用ヲ圖ル  
二、外國爲替ニ付テハ之カ統制ノ目標ヲ海外拂ノ節約ノミニ置クコ  
トナク外國ヨリスル國防物資ノ獲得ヲ確保スルコトヲ目標トシ外  
國爲替資金ハ日滿兩國ハ共同ニ之ヲ運用シ支那ニ付テモ能フ限り  
日滿ト綜合的ニ運用スル如ク措置ス尙進ンテ皇國ヲ東亞共榮圈ノ  
金融及經濟ノ中心地タラシムル様施策ス  
ホ、日滿支三國間ニハ國際決濟上所要ノ協定ヲ爲シ三國經濟ノ互助  
連環性ヲ強化ス  
ヘ、支那ニ於ケル幣制ニ付テハ皇國ノ指導性ヲ保持スルコトヲ原則  
トシテ情勢ノ推移ニ應シテ善處ス

... 日滿支三國間ニ於テハ相互ニ必要ナル物資ノ優先的交流ヲ圖滑  
確實且敏活ヲラシム  
... 對第三國又ハ他ノ集團トノ關係ニ於テハ日滿支一體トシテ物資  
ノ交易ヲ國別又ハ集團別ニ確立シ日滿支ノ生産ニ必要ナル物資ノ  
獲得ヲ確保シ内部的ニ之カ配分調整ヲ圖ル  
... 日滿支以外ノ東亞共榮圈內ノ諸地域トノ關係ハ相互ニ優先的ニ  
必要物資ノ確保ヲ目的トスル貿易協定ヲ爲シ進ムテ日滿支ト一體  
的關係ニ立ツ如ク指導ス

#### 四、交易

從來ノ商業的貿易理念ヲ改メ皇國ヲ中心トスル東亞共榮圈ヲ一體ト  
セル生産經濟主義ニ基ク貿易政策ヲ確立シ世界經濟ニ於ケル其ノ地  
歩ヲ確保ス

- イ、日滿支三國間ニ於テハ相互ニ必要ナル物資ノ優先的交流ヲ圖滑  
確實且敏活ヲラシム
- ロ、對第三國又ハ他ノ集團トノ關係ニ於テハ日滿支一體トシテ物資  
ノ交易ヲ國別又ハ集團別ニ確立シ日滿支ノ生産ニ必要ナル物資ノ  
獲得ヲ確保シ内部的ニ之カ配分調整ヲ圖ル
- ハ、日滿支以外ノ東亞共榮圈內ノ諸地域トノ關係ハ相互ニ優先的ニ  
必要物資ノ確保ヲ目的トスル貿易協定ヲ爲シ進ムテ日滿支ト一體  
的關係ニ立ツ如ク指導ス

#### 五、交通

日滿支經濟ノ一體化ヲ促進スルト共ニ國防上ノ要求ニ合致セシムル  
爲メ、三國相互間ノ交通、通信關係ヲ飛躍的發展セシムヘク船舶、  
港灣、鐵道ノ整備擴充ヲ圖ルト共ニ、海陸運輸施設ノ有機的連絡ヲ  
促進シ、航空ノ一元的統制連絡、電氣通信施設及放送施設ノ整備擴  
充等ニ努ム尙大陸ニ於ケル交通施設ノ劃期的擴充ヲ期ス

イ、皇國ハ日滿支間交通上ニ於ケル指導的使命ヲ充足スルト共ニ東  
亞ノ海運ニ絶對的優位ヲ占メ更ニ進ンテハ世界的發展ヲナス爲メ  
日本船舶ノ飛躍的增加ヲ圖ル

ロ、滿洲國ニ於テハ國防上並ニ産業開發計畫ノ促進ノ見地ヨリ急速  
ナル交通通信施設ノ擴充ヲ圖ル

ハ、支那ハ經濟ノ復興並ニ産業開發促進ノ爲メ交通通信施設ノ擴充ヲ  
圖ルト共ニ内河水運ノ發達ニ力ム

北支邊疆ニ於ケル交通通信ニ關シテハ國防上ノ見地ヨリ日滿トノ  
關係ヲ特ニ緊密ナラシムルト共ニ急速ナル其ノ擴充ヲ圖ル

日本は、東亞の交通通信の中心として、其の地位を確保すべし。其の爲め、東亞の交通通信の網を擴張し、其の中心を日本に置かざるを得ず。日本は、東亞の交通通信の網を擴張し、其の中心を日本に置かざるを得ず。日本は、東亞の交通通信の網を擴張し、其の中心を日本に置かざるを得ず。

三 東亞ニ於ケル交通通信ノ自主的地位ヲ確保スル爲第三國權益ヲ  
 逐次我勢力下ニ把握スルコトニ努ム

對支經濟緊急對策

第一、方針

三國同盟締結ニ伴ヒ我物動物資對支供給額ノ激減ヲ見ルベキ情勢ニ鑑ミ支那ニ於ケル經濟上ノ施策ハ我方指導ノ下ニ從來ノ措置ニ泥マス速ニ支那ニ於ケル各方面ノ經濟力ノ綜合活用ヲ一段ト強化シテ現地ニ於ケル必要物資ノ調達及皇國ノ必要トスル物資ノ輸入獲得ヲ促進スルト共ニ他面支那ニ於ケル我方ノ消耗ヲ合理的ニ縮減シ以テ皇國ノ國防經濟力ノ自給強化特ニ綜合戰力ノ急速向上ヲ期ス

第二、要領

- 一、支那ニ於ケル我方ノ消費ヲ極力縮減スルコトニ努ムルト共ニ現地物資ノ回收徹底化ヲ圖ル
- 二、現地産業ノ開發増産ヲ主トシテ戰時ニ於テモ確保スヘキ地域ニ

昭和十五年十一月八日  
興亞院會議決定  
昭和十五年十一月八日  
閣議決定



賦存スル基本的國防資源（鐵鑛、石炭、鹽、重石、螢石、雲母、石棉及其他特定資源）ニ之ヲ嚴ニ限定シ急速且經濟的開發利用可能ナルモノヨリ實施スルト共ニ所要ノ限度ニ於テ港灣設備並輸送力ノ應急的增強ヲ企圖スルト共ニ是等資源ノ開發ニ關シテハ日滿支ヲ通シ各其ノ開發能率ニ基ク開發順位ヲ決定シ之ヲ開發ヲ促進ス

右重點事業ニ對スル資材及資金ノ供給ハ之ヲ確保スル如ク措置ス

- (1) 事業計畫ノ根本的改訂
- (2) 會社經營能率上ノ根本的措置
- (3) 非重點事業會社ノ整理統合又ハ移管
- (4) 過剩人員ノ整理並轉業對策

三、支那土產物資ノ出網ヲ極力増進シ他面我國經濟負擔ヲ可及的輕減ヤシムル如ク措置ス

(1) 收買機構ニ關シ支那側ノ資本及機構ノ利用

(2) 買付價格ノ合理的調整

(3) 物資搬出入統制ノ有效的強化（別紙參照）

(4) 日本側特殊買付機構ニ關スル所要ノ調整

四 物動物資ノ第三國又ハ租界ヨリノ買付ニ關シ支那商社ノ資本及機構ノ利用ヲ圖ルト共ニ之ニ對應シテ極力第三國向輸出ヲ促進ス

(1) 石油類工作機械小麥等ノ買入

(2) 北支ニ於ケル無爲替輸入許可制運用ノ調整

五 支那土着資本（華僑資本ヲ含ム）ノ誘導並ニ活用ニ關シ積極的ニ努力ス

六 支那ニ於ケル外國商社ニシテ我方ニ協力シ來タレルモノニ對シテハ事業ノ地域並種別ニシテ差支ナキ限リ其ノ國籍ノ如何ヲ問ハス積極的ニ之ヲ利用シ或ハ之ト合作ス時ニ獨伊トノ協力ニ付

テハ優先的ニ之ヲ處理ス

七對日滿物動物資確保ニ關スル輸送諸施設ノ能率の應急整備ヲ圖ルト共ニ在支外國船腹ノ急速把握ニ努ム

(1) 海陸輸送能力ニ對應スル港灣諸施設（碼頭、舢等）ノ能率的應急整備特ニ塘沽新港ノ建設計畫ニ再檢討ヲ加ヘ資金、資材ノ捻出轉用ヲ圖ル

(2) 輸送配船ノ管理強化

(3) 輸送ニ伴フ苦力ノ確保

八日滿支ノ物動計畫及生産力擴充計畫ヲ根本的ニ改訂シ其計畫實施ヲ能率化スルコトニ努ム之カ爲要スレハ緊急體制ヲ整備ス

### 第三、處置

本對策ニ基ク具體的**施策**ニ就テハ別途速ニ計畫ヲ樹立シ機ヲ失セズ逐次實施ス

### 備考

一、海關制度ノ徹底的把握及財政制度ノ確立把握ニ就テハ別途措置ス

別紙

- 物資搬出入統制ノ有效的強化ハ左記要領ニ依リ之ヲ實施スルモノトス
- 一、物動物資、軍ノ現地自活上ノ所要物資竝特定輸出物資ハ極力之ヲ占據地域内ニ於テ取得シ其ノ不足物資ハ各種ノ工作ヲ施シテ非占據地區ヨリ吸引ス
  - 二、占據地域内民生安定ノ爲必要ナル限り非占據地區ヨリスル消費物資ノ流入ヲ認ム
  - 三、非占據地區ヨリ物資ヲ吸引取得スル爲交換用物資ヲ使用流出セシムルヲ要スル場合ニ在リテモ敵側抗戦力ヲ培養セシメサル如ク嚴ニ之ヲ選擇ス
  - 四、右實施ニ當リテハ第三國商社ハ特ニ差別的取扱ヲ爲サス、又非敵性第三國商社ハ積極的ニ之ヲ利用スルコトアルヘシ

新中央銀行設立ニ伴フ中支通貨  
處理ニ關スル件

昭和十五年九月十日  
興亞院會議決定

方針

- 一、軍票ニ關シテハ其ノ價值維持方策ヲ此ノ際特ニ強化スルコトトシ極力現地放出量ヲ制限スルト共ニ他面之カ回收ヲ促進スル爲所要ノ物資竝ニ外貨ヲ供出シ且支那側ヲシテモ出來得ル限り資金的協力其ノ他所要ノ協力を爲サシム
- 二、支那側ヲシテ我方援助ノ下ニ新中央銀行ヲ設立シ法幣ト等價ノ新通貨ヲ發行セシムルコトトシ同行ノ運營ニ關シテハ緊密ニ我方ト連絡協調セシメ以テ日支金融協力ノ基礎タラシム尙同行ノ運營力軍票對策ニ惡影響ヲ及ホササル様所要ノ協定ヲ締結スルト共ニ必要ナル措置ヲ採ラシムルモノトス
- 三、新中央銀行ト華興商業銀行トノ關係ニ付テハ新中央銀行ヘノ出資資金ノ調達、華興商業銀行ノ發行權ノ處理其ノ他ニ關シ所要ノ調

整ヲ行フ

措 置

一、軍票ノ放出量ヲ劃定スルト共ニ之カ回收ノ爲我方ノ供出スル物資  
竝ニ外貨資金ヲ決定シ關係方面協力シテ其ノ圓滑ナル遂行ヲ圖リ  
之カ價值維持ニ不安ナカラシムルモノトス

二、新中央銀行ノ資本金ハ差當リ一億元（全額拂込）政府ノ全額引受  
トスルモ民間資本誘導ノ餘地ヲ存シ置クモノトス

三、新中央銀行ノ資本金ニ關スル我方ノ援助ハ華興商業銀行ノ中央政  
府ニ對スル借款ノ形式ヲ採ラシムルコトトシ左記ニ依ルモノトス  
(イ) 金額 五千萬元ニ相當スル米資

(ロ) 擔 保 新中央銀行株式

四、新中央銀行ノ保有外貨ハ日本側銀行ニ預託セシムルモノトシ日本  
側ト話合ノ上所要ニ應シ少額ノ外貨ハ之ヲ外國銀行ニ預託換スル  
コトヲ得ルモノトス

五 新中央銀行ノ發行スル通貨ノ價值基準ハ差當リ法幣ト等價ナラシム  
法幣ノ著シク下落セル場合ニ於ケル獨自ノ價值基準設定ニ付テハ常  
時其ノ用意ヲ整ヘ置クモ之カ實施ニ付テハ慎重施策スルモノトス  
六 新中央銀行ノ運営ニ關シ新銀行券ノ外貨兌換性ヲ失ハサラシムル爲  
其ノ發行ハ外貨、法幣ヲ見返リトスル場合又ハ新通貨預金ノ拂出其  
ノ他之ニ準スル場合ニ限定スルモノトシ中央政府ヲシテ健全財政方  
針ヲ堅持セシメ新中央銀行ハ政府貸上等ヲ爲ササルモノトス  
七 華興商業銀行券ニ付テハ關稅收入確保上遺憾ナキ措置ヲ講スルコト  
トシ新中央銀行成立ト同時ニ之カ發行權ヲ取消スモノトス  
八 新中央銀行ノ設立後ニ於ケル華興商業銀行ノ機能及存續ノ態樣ニ付  
テハ情勢ノ推移ニ依リ適當調節スルモノトス  
九 新銀行ノ設立及運営ニ付テハ新通貨ノ單票ニ對スル悪影響ノ防止及  
中支ニ於ケル日支金融協力具現ノ爲緊密ニ我方ト連絡協調セシムル  
モノトシ之カ爲特ニ左ノ諸措置ヲ講スルモノトス  
(一) 新銀行法案其他關係章程等ノ制定ニ付テハ支那側ヲシテ事前ニ我  
方ニ連絡協議セシムルコト  
(二) 左ノ諸項ニ付キ日支間ニ協定ヲ行フコト

(1) 新中央銀行ニハ日本人顧問ヲ招聘セシメ行務ノ樞機ニ參劃セシムルコト

(2) 新中央銀行保有外貨ノ管理竝ニ運用ニ付テハ日支双方ノ委員ヨリ成ル委員會ヲシテ之ニ當ラシムルコト

(3) 支那側ハ軍票價值維持ノ爲我方ニ對シ所定額ノ資金的協力ヲ爲スコト

(4) 支那側ハ軍票對策トシテ從來日本側ノ採ル來レル事實ヲ確認シ竝ニ將來ニ於テモ之ニ協力スルコト

(5) 支那側ハ新通貨ノ流通分野ニ付隨時日本側ニ協議スルコト  
「註」新通貨ハ差當リ政府ノ財政收支上ニ於ケル使用通貨（三

角地帯ニ於ケル鹽稅收納ノ場合ヲ含ム但シ鹽ノ賣買ニ付テハ此ノ限ニ在ラス）タラシメ漸次法幣領域ヘノ進出ヲ

企圖セシム

(6) 支那側カ軍票對策ニ影響アル施策ヲ實行セントスルトキハ豫メ日本側ニ協議スルコト



日本銀行ニ對シテハ  
 (1) 支那銀行ノ設立ニ對シテハ  
 (2) 支那銀行ノ設立ニ對シテハ  
 (3) 支那銀行ノ設立ニ對シテハ  
 (4) 支那銀行ノ設立ニ對シテハ  
 (5) 支那銀行ノ設立ニ對シテハ  
 (6) 支那銀行ノ設立ニ對シテハ  
 (7) 支那銀行ノ設立ニ對シテハ  
 (8) 支那銀行ノ設立ニ對シテハ  
 (9) 支那銀行ノ設立ニ對シテハ  
 (10) 支那銀行ノ設立ニ對シテハ

(三) 新中央銀行ノ設立ニ當リ豫メ國民政府ヲシテ新中央銀行ハ軍票對策ニ惡影響ヲ與ヘス寧ロ之ニ相協力スル様運営セラルヘキモノナル趣旨ヲ聲明セシムルコト

備考

- 1 蒙疆銀行ノ運営ニ付テハ現状通りトシ中國聯合準備銀行モ之カ存續ヲ必要トスル間ハ現状ニ何等ノ變更ヲ加フルコト無ク運営セシムルモノトス從テ新中央銀行券ハ蒙疆及北支ニハ之ヲ流通セシメサルモノトス
- 2 新中央銀行ノ設立ハ日支ノ協力ニ依リ之ヲ行フノ建前ヲトリ特ニ第三國ノ參加又ハ援助ヲ勸誘スル爲ノ外交措置ヲ講セサルモノトス尙新中央銀行ニ關スル將來ノ第三國トノ關係事項ニ付テハ支那側ヲシテ單獨ニ之ヲ處理セシムルコト無ク常ニ日支協議ノ上之ニ行フ様支那側ヲ指導スルモノトス



中央儲備銀行設立ニ關スル覺書 (昭和一五年二月一七)

中華民國政府ニ於テ幣制ノ確立金融ノ復興發達ヲ圖ル爲中央儲備銀行(以下單ニ銀行ト稱ス)ヲ設立スルニ當リ同行力日華金融協力上占ムル地位ノ重要ナルニ鑑ミ且特ニ事變繼續中ハ事態特殊ナルモノアリ事變處理上必要トセラルル通貨政策ニ則ルノ要アルニ鑑ミ銀行ノ設立及運營ニ付日本側ハ中國側ニ對シ必要ナル援助協力ヲ爲スト共ニ中國側ハ充分日本側ニ連絡協調スルノ趣旨ニ基キ日本側ヲ代表スル日高參事官ト中國側ヲ代表スル周佛海財政部長トノ間ニ別紙ノ通了解成立セリ

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日南京ニ於テ  
大使館參事官 日 高 信 六 郎 印

財政部長 周 佛 海 印

第一 日本側ハ中國側カ銀行株式拂込ニ充當スヘキ資金中五千萬元  
 相當米貨ヲ華興商業銀行ヨリ借受クルニ付之カ斡旋竝ニ協力ヲ爲  
 シ中國側ハ本借款金ヲ銀行株式拂込ニ充當スルコト  
 第二 中國側ハ銀行ノ運営ニ付健全主義ヲ堅持セシムルト共ニ他面  
 中國側ハ健全財政方針ヲ採リ已ムヲ得サル場合ヲ除キ銀行ヨリノ  
 借上等ヲ爲ササルコト  
 第三 中國側ハ日本側ニ協議ノ上銀行ニ日本人顧問一名ヲ招聘シ其  
 ノ職權ハ一般顧問ノ規定ニ據ル但シ本覺書ニ記載シタル精神ニ依  
 リ顧問ニ本項第三節乃至第七節ニ據ケタル權限ヲ有セシムルコト  
 中國側ハ日本側ニ協議ノ上銀行ニ顧問附若干名ヲ招聘シ顧問ヲ輔

別紙

第一 日本側ハ中國側カ銀行株式拂込ニ充當スヘキ資金中五千萬元  
 相當米貨ヲ華興商業銀行ヨリ借受クルニ付之カ斡旋竝ニ協力ヲ爲  
 シ中國側ハ本借款金ヲ銀行株式拂込ニ充當スルコト  
 第二 中國側ハ銀行ノ運営ニ付健全主義ヲ堅持セシムルト共ニ他面  
 中國側ハ健全財政方針ヲ採リ已ムヲ得サル場合ヲ除キ銀行ヨリノ  
 借上等ヲ爲ササルコト  
 第三 中國側ハ日本側ニ協議ノ上銀行ニ日本人顧問一名ヲ招聘シ其  
 ノ職權ハ一般顧問ノ規定ニ據ル但シ本覺書ニ記載シタル精神ニ依  
 リ顧問ニ本項第三節乃至第七節ニ據ケタル權限ヲ有セシムルコト  
 中國側ハ日本側ニ協議ノ上銀行ニ顧問附若干名ヲ招聘シ顧問ヲ輔

12  
中 國 關 係 及 外 國 銀 行 關 係 事 項  
一、銀行ノ營業ニ關シ理事會ノ議決ヲ要スル事項  
二、政府ニ對スル貸上及公債庫券ノ引受  
三、外國爲替及外國銀行トノ關係事項  
四、舊通貨ニ關スル事項  
五、軍票及日本通貨ニ關係アル事項  
六、蒙疆華北ニ關係アル事項  
願同ハ必要ノ場合銀行ノ業務ニ關シ總裁副總裁ニ説明ヲ求ムルコトヲ得ルコト  
右説明ノ場合ハ便宜ノ爲關係書類ヲ用フルコト

佐セシムルコト

銀行ハ左ノ事項ヲ實行スルニ當リ顧問ニ豫メ諮詢スルコト

一、銀行ノ營業ニ關シ理事會ノ議決ヲ要スル事項

二、政府ニ對スル貸上及公債庫券ノ引受

三、外國爲替及外國銀行トノ關係事項

四、舊通貨ニ關スル事項

五、軍票及日本通貨ニ關係アル事項

六、蒙疆華北ニ關係アル事項

願同ハ必要ノ場合銀行ノ業務ニ關シ總裁副總裁ニ説明ヲ求ムルコトヲ得ルコト

右説明ノ場合ハ便宜ノ爲關係書類ヲ用フルコト

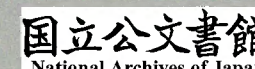
本國銀行の業務に支障を及ぼすことなきことを要す  
本國銀行の業務に支障を及ぼすことなきことを要す  
本國銀行の業務に支障を及ぼすことなきことを要す  
本國銀行の業務に支障を及ぼすことなきことを要す  
本國銀行の業務に支障を及ぼすことなきことを要す  
本國銀行の業務に支障を及ぼすことなきことを要す  
本國銀行の業務に支障を及ぼすことなきことを要す  
本國銀行の業務に支障を及ぼすことなきことを要す  
本國銀行の業務に支障を及ぼすことなきことを要す  
本國銀行の業務に支障を及ぼすことなきことを要す

顧問ハ重要ナル行務ニ關シ隨時銀行ニ建議スルコトヲ得ルコト  
顧問ハ必要ニ應シ重役會ニ列席スルコトヲ得ルコト

第四 中國側ハ銀行ヲシテ其ノ保有外貨ヲ日本側銀行ニ預託セシム  
ルコト但シ日本側及中國側協議ノ上所要ニ應シ少額ノ外貨ハ之ヲ  
他ノ銀行ニ預託換スルコトヲ得ルコト

第五 銀行ノ保有スル外貨ノ管理並ニ運用ニ付テハ外貨管理委員會  
ヲ設ケテ之ニ當ラシメ該委員會ノ委員ハ日本側及中國側ノ推薦ス  
ル者各二名トシ委員會ニ關スル規定ノ制定及變更ニ付テハ中國側  
ハ日本側ニ協議ノ上之ヲ行フコト

第六 中國側ハ軍票對策トシテ從來日本側ノ採リ來レル事實ヲ確認  
シ並ニ將來ニ於テモ之ニ協力シ且銀行ヲシテ同様確認協力セシム



... 中國側ハ自己又ハ銀行カ軍票對策ニ影響アル施策ヲ實行セントス  
ルトキハ豫メ日本側ニ協議スルコト  
中國側ハ新通貨ノ流通分野ニ付隨時日本側ニ協議スルコト  
中國側ハ銀行ヲシテ軍票價值維持ノ爲日本側ノ指定スル銀行ニ對  
シ日本側及中國側カ別ニ隨時協議決定スル一定額ノ新通貨預金ヲ  
行ヒ又ハ新通貨ト軍票トノ交換ニ應セシムルコト  
第七 日本側及中國側ハ華北政務委員會ノ管轄スル地域ニ於ケル通  
貨金融ニ關シテハ中國聯合準備銀行ヲ中心トシテ運営セラレアル  
事實ヲ確認シ且將來ニ於テモ之カ存續ヲ必要トスル間ハ其ノ存續  
ヲ認メ且兩銀行間ノ連絡協調ヲ圓滑ナラシムルコト

ルコト

中國側ハ自己又ハ銀行カ軍票對策ニ影響アル施策ヲ實行セントス

ルトキハ豫メ日本側ニ協議スルコト

中國側ハ新通貨ノ流通分野ニ付隨時日本側ニ協議スルコト

中國側ハ銀行ヲシテ軍票價值維持ノ爲日本側ノ指定スル銀行ニ對

シ日本側及中國側カ別ニ隨時協議決定スル一定額ノ新通貨預金ヲ

行ヒ又ハ新通貨ト軍票トノ交換ニ應セシムルコト

第七 日本側及中國側ハ華北政務委員會ノ管轄スル地域ニ於ケル通

貨金融ニ關シテハ中國聯合準備銀行ヲ中心トシテ運営セラレアル

事實ヲ確認シ且將來ニ於テモ之カ存續ヲ必要トスル間ハ其ノ存續

ヲ認メ且兩銀行間ノ連絡協調ヲ圓滑ナラシムルコト

中國側ハ銀行ノ設立及運営ニ當リ華北ニ於ケル通貨金融ニ對シ動  
搖ヲ生セシメサル様措置スルコト  
第八 日本側ハ銀行成立シ新通貨發行セラルルニ至ラハ華興商業銀  
行ノ發行權ヲ取消シ既發行券ハ之ヲ回收スルコトニ同意シ中國側  
ハ華興商業銀行カ日華金融協力具現ノ一タルヲ確認シ其ノ發展ヲ  
援助スルコト



諒解事項

一、覺書第三項第二節ニ定ムル顧問附ハ三名トスルコト（秘書ハ別トス）

二、覺書第五項ニ定ムル日本側ノ推薦スル委員二名中一名ハ顧問ヲ以テ之ニ充ツルコト

三、覺書第五項ノ外貨管理委員會ノ運用ニ付テハ銀行ノ日常ノ爲替業務ノ便宜ヲ考慮シ隨時委員會ニ依リ決定セラルヘキ一定金額ノ外貨ハ銀行ニ於テ自由ニ處理スルコトヲ得ルモノトナスコト

四、覺書第六項第四節ノ預金又ハ交換セラレタル軍票ニ付テハ後日日本側及中國側間ノ協議ニ依リ其ノ處理方法決定セラルル迄ハ右預金ハ之ヲ拂出サス又右軍票ハ之ヲ日本側及中國側協議ノ上決定セラルヘキ銀行ニ預入シ該軍票預金ハ之ヲ拂出ササルコト

中央儲備銀行細部指導暫行要領  
（昭和）五—二六  
本年九月十日興亞院會議決定ノ「新中央銀行設立ニ伴フ中支通貨處理ニ關スル件」ニ基キ中央儲備銀行ノ設立及爾後ニ於ケル細部ニ關スル指導要領取敢ヘス左ノ通定、以テ現地ニ於ケル通貨處理ニ關シ萬遺憾ナキヲ期スルモノトシ本要領中、中國側ニ關係アル要點ハ「中央儲備銀行設立ニ關スル覺書」（以下單ニ覺書ト略稱ス）締結前ニ之ヲ中國側ニ納得セシメ置クモノトス

中央儲備銀行細部指導暫行要領

（昭和）五—二六

主 旨

本年九月十日興亞院會議決定ノ「新中央銀行設立ニ伴フ中支通貨處理ニ關スル件」ニ基キ中央儲備銀行ノ設立及爾後ニ於ケル細部ニ關スル指導要領取敢ヘス左ノ通定、以テ現地ニ於ケル通貨處理ニ關シ萬遺憾ナキヲ期スルモノトシ本要領中、中國側ニ關係アル要點ハ「中央儲備銀行設立ニ關スル覺書」（以下單ニ覺書ト略稱ス）締結前ニ之ヲ中國側ニ納得セシメ置クモノトス

要 領

一、貨幣法中央儲備銀行法其他關係章程等、改正並ニ通貨及爲替ニ關

係アル重要政策ノ決定及改正ニ當リテハ中國側ハ豫メ日本側ニ連絡協議スルモノトス

二、中央儲備銀行ノ設立竝ニ同行ノ發行スル銀行券ノ流通ニ付テハ中國聯合準備銀行券及軍票ノ流通竝ニ價值維持ヲ阻害スルコトナク調和シ且專變處理上必要トスル通貨政策ニ則ル如ク日華兩國側相協力シテ措置スヘキモノトス

三、覺書第三項ノ日本人顧問ニ關シテハ命令ヲ以テ中央儲備銀行ヲ適當且有效ニ拘束シ置クモノトス

四、新通貨ハ差當リ政府ノ財政收支上ニ於ケル使用通貨タラシメ漸次法幣領域ヘノ進出ヲ企圖セシムルモノトス

五、華北政務委員會ノ管轄スル地域ニ於テハ新通貨ヲ流通セシメサル

18

...

モノトス

六、專賣繼續中左ノ地域ニ於テハ日華兩國ニ於テ協議ノ上決定スル時期迄新通貨ハ財政收支ニ使用セス又強制的ニ使用セシメサルモノトス（他ノ地域ヨリノ流通ニ由ル事實上ノ流入ヲ排除セス）

- 1、徐海道
  - 2、武漢方面ニ於ケル日本軍占據地域
  - 3、安慶方面ニ於ケル日本軍占據地域
  - 4、南支及海南島ニ於ケル日本軍占據地域
- 七、覺書第六項第二節ノ「軍票對策ニ影響アル施策」中ニハ左ノ各號中ノ關係事項ヲ含ムモノトス

- 1、日本及滿洲ヨリ中支ノ輸入スル物資ニ課スル公租公課ノ増徴

1、日本銀行の業務の整理  
 2、日本銀行の業務の整理  
 3、日本銀行の業務の整理  
 4、日本銀行の業務の整理  
 5、日本銀行の業務の整理  
 6、日本銀行の業務の整理  
 7、日本銀行の業務の整理  
 8、日本銀行の業務の整理  
 9、日本銀行の業務の整理  
 10、日本銀行の業務の整理

及新設

- 2、政府（省市縣政府共）ノ銀行ノ設立及民間銀行設立認可並ニ之等既設銀行ノ擴張
- 3、銀行及錢莊ノ取締監督並ニ爲替（郵便爲替共）ニ關スル法令ノ制定及改廢
- 4、物資ノ輸移出入及配給ニ關スル制度又ハ法令ノ制定及改廢
- 5、從來軍票ヲ以テ出納セル政府（省市縣政府共）ノ收支ヲ新通貨使用ニ改ムル場合
- 6、小額紙幣ノ發行

附記

中央儲備銀行設立ニ關スル覺書ニ依リ中國側ヨリ日本側ニ連絡協



極秘

中央儲備銀行法

(昭和一五二二一九公布)

第一章 總 則

第一條 中央儲備銀行ハ國家銀行トナシ國民政府之ヲ設置ス

第二條 中央儲備銀行ノ資本總額ハ國幣一億元ト<sup>換</sup>國庫ヨリ支出

ス

中央儲備銀行必要アルトキハ理事會ノ決議及監事會ノ同意ヲ經テ  
國民政府ニ對シ資本總額ノ增加竝ニ民間株式ノ募集ニ付許可ヲ申  
請スルコトヲ得

但シ民間株式總額ハ資本總額ノ百分ノ四十ヲ超ユルコトヲ得ス  
國民政府ハ必要アルトキハ其ノ所有スル中央儲備銀行株式ノ一部  
ヲ民間ニ讓渡スルコトヲ得

民間株式ノ募集又ハ國民政府所有株式ヲ民間株式トナス場合ニハ  
本國經營ノ銀錢業ノ法人ニ株式購入ノ優先權ヲ認ム各法人購入ノ  
株式カ中央儲備銀行資本總額ノ百分ノ三十以上ニ達シタルトキハ  
本國人民個人ノ株式購入ヲ許ス但シ人民個人ノ株式購入ハ財政部  
長ノ許可ヲ經ヘシ

第三條 中央儲備銀行ハ國民政府ヨリ左ノ特權ヲ受ク

一、本位貨幣及補助貨幣ノ兌換券ノ發行

二、政府鑄造ノ本位貨幣及補助貨幣發行ノ經理

三、國庫ノ經理

四、内外債ノ引受並ニ其ノ元利支拂事務ノ經理

第四條 中央儲備銀行ハ總行ヲ首都ニ分支行處ヲ國內各地ニ設ク又







第十條 監事會ノ職務左ノ如シ  
一 監事會ハ主權イテ  
二 監事會ハ全行ノ事務ヲ監督シ  
三 監事會ハ股東會ノ決議ニ對シテ  
四 監事會ハ主權イテ  
五 監事會ハ全行ノ事務ヲ監督シ  
六 監事會ハ股東會ノ決議ニ對シテ  
七 監事會ハ主權イテ  
八 監事會ハ全行ノ事務ヲ監督シ  
九 監事會ハ股東會ノ決議ニ對シテ  
十 監事會ハ主權イテ

第十一條 左ノ事項ハ理事會ノ議決ヲ經テ總裁之ヲ執行ス

一、業務方針

二、兌換券發行總額

三、準備金額

四、豫算決算

五、資本ノ増加

六、各項規則ノ作成

七、國內分支行處及國外代理處ノ設置及廢止

八、總裁ノ提議スル事項

前項第三第四第五第六及第七各款ハ國民政府ノ許可ヲ經テ後之ヲ執行スルコトヲ得

第十二條 監事會ノ職務左ノ如シ

一、帳簿ノ検査

二、準備金ノ検査

三、兌換券發行額ノ検査

四、豫算、決算ノ査定

第十三條 中央儲備銀行總行ノ事務ハ國民政府ノ審査許可ヲ經テ局處ヲ設ケ之ヲ辦理セシムルコトヲ得

前項局處ノ局長、副局長、處長、副處長ハ總裁ニ於テ理事會ノ同意ヲ經テ之ヲ任用ス

第十四條 中央儲備銀行總行各局處ハ科ヲ分ツテ事務ヲ處理スルコトヲ得

前項各科ノ主任副主任ハ總裁之ヲ任命ス

第十五條 中央儲備銀行分行經理ハ總裁ヨリ理事會ノ同意ヲ經テ之ヲ任用ス

マ五員

第十條 中央儲備銀行發行兌換券ハ總額ニ制限セズ

前項各條ノ主旨ニ據テ、主として、兌換券ノ發行ハ、

イ、

第十四條 中央儲備銀行發行兌換券ノ種類ハ、

一、

二、

三、

第十三條 中央儲備銀行發行兌換券ノ最高額ハ、

一、

二、

三、

### 第三章 發行

第十六條 中央儲備銀行ノ發行兌換券最高額ハ國民政府ノ許可ヲ受

クヘシ

第十七條 中央儲備銀行發行兌換券ハ一元、五元、拾元、五拾元、

百元ノ五種ニ分ツコトヲ得竝ニ拾進法ニ依ル補助兌換券ヲ發行ス

ルコトヲ得

第十八條 中央儲備銀行兌換券ハ中華民國ノ法幣トナシ無制限ニ流

通スルモノトス

第十九條 中央儲備銀行兌換券ハ總行ニ由リ本位貨幣又ハ外貨ヲ以

テ之ヲ兌換スルコトヲ得

第二十條 中央儲備銀行兌換券準備金ハ少クトモ百分ノ四十ノ現金

準備ヲ保有スルヲ要シ其ノ殘額ハ國民政府ノ發行或ハ保證スル有價證券及本法第二十四條第六號乃至第八號ニ該當スル手形ヲ以テ保證準備トナス

第二十一條 中央儲備銀行ノ發行スル兌換券ノ現金準備ハ左記ノ二種ニ分ツ

一、銀貨及地金銀

二、外國貨幣及外國貨幣ニ依ル預ケ金

第二十二條 中央儲備銀行ノ兌換券準備金ハ總テ公開シ發行額及準備金額ハ毎週之ヲ公表ス

第二十三條 中央儲備銀行ノ兌換券ニ付テハ發行税ノ納付ヲ免除スルコトヲ得

第四章 業務

第二十四條 中央儲備銀行ハ國民政府ノ附與スル特權ノ外左ノ業務

ヲ營ムコトヲ得

一、國營事業ノ金錢出納ノ經理

三、地方<sup>公</sup>庫及公營事業ノ金錢出納ノ代理

二、各銀行ノ準備ノ管理並ニ各銀行間ノ爲替清算事務經理

四、預金ノ收納

五、國民政府ノ發行或ハ保證ニカカル國庫證券及公債利札ノ再割引

本號ノ證券及利札ノ滿期日ハ再割引ノ日ヨリ六ヶ月ヲ超過スルヲ  
ヲ得ス

六、國內銀行引受手形國內商業爲替手形及約束手形ノ再割引

六 國內支拂、其支拂日、本銀行取得ノ日ヨリ六ヶ月ヲ超ユルヲ得ス又裏書手形ナルト

キハ其ノ

本銀行取得ノ日ヨリ六ヶ月ヲ超ユルヲ得ス又裏書手形ナルト

五 國內支拂、其支拂日、本銀行取得ノ日ヨリ六ヶ月ヲ超ユルヲ得ス又裏書手形ナルト

四 國內支拂、其支拂日、本銀行取得ノ日ヨリ六ヶ月ヲ超ユルヲ得ス又裏書手形ナルト

三 國內支拂、其支拂日、本銀行取得ノ日ヨリ六ヶ月ヲ超ユルヲ得ス又裏書手形ナルト

二 國內支拂、其支拂日、本銀行取得ノ日ヨリ六ヶ月ヲ超ユルヲ得ス又裏書手形ナルト

一 國內支拂、其支拂日、本銀行取得ノ日ヨリ六ヶ月ヲ超ユルヲ得ス又裏書手形ナルト

七 國外支拂ノ爲替手形賣買

本號ノ手形ハ貨物ノ生産、製造、運輸、販賣ニ起因スルモノタルヲ要シ其ノ満期日ハ本銀行取得ノ日ヨリ六ヶ月ヲ超ユルヲ得ス且確實ナル商店少クトモ二戸ノ署名アルヲ要ス但シ貨物引換

證、倉敷證券或ハ倉庫證券ヲ擔保トナシ且ツ貨物ノ價值ガ其ノ

擔保スル手形金額ヲ超過スルコト百分ノ二十五ナルトキハ確實

ナル商店一戸ノ署名ニヨリ之ヲ辨理スルコトヲ得

七 國外支拂ノ爲替手形賣買

本號ノ爲替手形カ輸出入貿易ニ起因セルモノナルトキハ手形提

示後其ノ満期日ハ四ヶ月ヲ超ユルコトヲ得ス又裏書手形ナルト

キハ其ノ満期日ハ本銀行取得ノ日ヨリ四ヶ月ヲ超ユルヲ得ス總

テ商業習慣ニヨリ支拂期日ヲ定ムル爲替手形ハ少クトモ確實ナ



ル商店二戸ノ署名ヲ要ス但シ貨物引換證倉敷證券或ハ倉庫證券  
ヲ擔保トナシ且ツ其ノ貨物ノ價值カ其ノ擔保スル手形金額ヲ超  
過スルコト百分ノ二十五ナルトキハ確實ナル商店一戸ノ署名ニ  
テ之ヲ辦理スルコトヲ得

八、内外確實銀行ノ一覽拂手形、小切手ノ賣買

九、國民政府ノ發行或ハ保證スル公債庫券ノ賣買其ノ數量ハ理事會  
之ヲ議定ス

十、地金銀及外國貨幣ノ賣買

十一、内外爲替ノ取扱及銀行約束手形ノ發行

十二、地金銀ヲ抵當トスル貸付

十三、國民政府發行或ハ保證ノ公債庫券ヲ抵當トスル貸付、其ノ金額

期限及利率ハ理事會之ヲ決定ス

由政府委託ノ信託業務

並各種經費ノ代理出納

第二十五條 中央儲備銀行ノ取得スル不動産ハ左ノ各號ニ限ル

一、本銀行ノ營業ニ必要ナル不動産

二、債務清算ニ依リ取得スル不動産

前項第二號ノ不動産ハ取得ノ日ヨリ一年以内ニ之ヲ處分スヘシ但シ特別ノ事情アリテ理事會ノ議決ヲ經國民政府ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 中央儲備銀行ノ業務ハ左記各號ノ制限ヲ受クルモノト

ス

一、貸付期限ハ六ヶ月ヲ超ユルヲ得ス  
 二、私人、會社又ハ私法人ニ對スル貸付、再割引其ノ他ノ立替支拂  
 及其ノ爲替手形、小切手、其ノ他手形ノ買入ハ之ヲ合計シテ一  
 戸ニ付五十萬元ヲ超ユルヲ得ス、株式會社ノ場合ハ同會社資本  
 及積立金總額ノ三分ノ一ヲ超ユルヲ得ス  
 三、左ノ各種手形ハ買入又ハ再割引、若ハ其ノ他貸付ノ附屬擔保品  
 トナスヲ得ス但シ擔保ヲ追加シ或ハ本行ノ利益保全ノ爲ニスル  
 モノハ此ノ限ニ在ラス尤モ此種手形ハ取得ノ日ヨリ一年以内ニ  
 之ヲ處分スルヲ要ス  
 甲、長期投資ニ供スルモノニテ土地財産、礦業財産、家屋財産、  
 機器等ノ購買ニ起因セル手形



第五章 決算

第二十七條 中央儲備銀行ハ毎年十二月末ヲ以テ總決算期トナシ左ノ書類ヲ作製シ理事會ノ議決監事會ノ審査ヲ經テ國民政府ニ申請スヘシ

一、財産目錄

二、資産負債表

三、營業報告表

四、損益計算書

五、剩餘金分配表

前項ノ資産負債表及損益計算書ハ國民政府公報及總分行所在地ノ新聞ニ登載スヘシ

第二十八條 中央儲備銀行ハ決算期毎ニ純益金ノ百分ノ五十以上ヲ積立金ニ充ツ積立金カ資本總額ニ達シタル時ハ理事會ノ議決、監事會ノ同意ヲ經テ百分ノ二十五以上ニ減スルコトヲ得

第二十九條 中央儲備銀行ノ純益ハ積立金ニ充ツル外總裁ヨリ理事會ノ議決ヲ經殘額中ヨリ適宜行員賞與金ヲ支辨スルコトヲ得殘額ハ國庫ニ納付ス

第三十條 中央儲備銀行第二條ノ規定ニ依リ民間株式ヲ募集シタルトキハ其ノ利益金處分ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 附 則

第三十一條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

整理貨幣暫行辦法

(昭和二年三月二日)  
財政部令公布

第一條 國民政府ハ中央儲備銀行ニ對シ兌換券發行ノ特權ヲ附與シ

漸次幣制統一ヲ完成スルキコトヲ期ス

第二條 中央儲備銀行ノ發行スベキ兌換券ノ種類及ビ準備率等ハ中

央儲備銀行法第十六條乃至二十三條ノ規定ニ照シテ之ヲ辦理ス

第三條 民國二十四年十一月三日發布ノ新貨幣法令ニ規定セル各種

法幣(以下舊法幣ト稱ス)ハ暫ク中央儲備銀行發行ノ兌換券ト等

價ヲ以テ流通セシムルモノトス

第四條 中央儲備銀行ハ其發行セル法幣ヲ以テ暫ラク等價ニテ現在

流通セル各種舊法幣ヲ回收シ以テ幣制統一ヲ促成スルコトヲ得

前項ノ回收辦法ハ區域及ビ情勢ヲ斟酌シ隨時別ニ之ヲ定ム

第五條 華興商業銀行ノ發行權ハ之ヲ取消シ其ノ已ニ發行セル兌換券ノ回收方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第六條 公租公課其他政府ニ對スル一切ノ支拂ニハ一律ニ中央儲備銀行發行ノ法幣ヲ使用スルモノトス但シ暫ク舊法幣ニ依ル納付ヲ許スモノトス

第七條 凡テ政府機關ノ各項經費ノ支拂ハ一律ニ中央儲備銀行發行ノ法幣ヲ使用スルモノトス

第八條 前二條ノ規定ハ別ニ定ム地域ニ付テハ當分ノ間之ヲ適用セズ

第九條 前述ノ各種貨幣ニ屬セスシテ而モ現在尙流通セルモノ及ビ各地ニ於テ現ニ流通セル各種小額貨幣ノ整理辦法ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 華興商業銀行ノ發行權ハ之ヲ取消シ其ノ已ニ發行セル兌換券ノ回收方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第六條 公租公課其他政府ニ對スル一切ノ支拂ニハ一律ニ中央儲備銀行發行ノ法幣ヲ使用スルモノトス但シ暫ク舊法幣ニ依ル納付ヲ許スモノトス

第七條 凡テ政府機關ノ各項經費ノ支拂ハ一律ニ中央儲備銀行發行ノ法幣ヲ使用スルモノトス

第八條 前二條ノ規定ハ別ニ定ム地域ニ付テハ當分ノ間之ヲ適用セズ

第九條 前述ノ各種貨幣ニ屬セスシテ而モ現在尙流通セルモノ及ビ各地ニ於テ現ニ流通セル各種小額貨幣ノ整理辦法ハ別ニ之ヲ定ム



第十條 華北政務委員會ノ管轄スル地域内ニ於テハ暫ク現状ヲ維持シ  
本辦法ノ規定ハ之ヲ適用セス

第十一條 本法ハ 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

中央儲備銀行外匯基金管理委員會章程

(昭和一九五二年三月二〇日  
財政部令公布)

- 第一條 財政部ハ中央儲備銀行ノ健全ナル發達ヲ圖リ同行ノ發行スル兌換券ノ信用ヲ鞏固ナラシムル爲外匯基金管理委員會ヲ特設ス
- 第二條 外匯基金管理委員會ハ中央儲備銀行ノ保有スル外貨ノ管理運用ニ關スル方針其他ノ關係重要事項ヲ審議決定ス
- 第三條 外匯基金管理委員會ハ委員四名ヲ以テ組織シ財政部長ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ委員ヲ聘任又ハ選任ス
- 財政部長ハ委員中ヨリ一名ヲ指定シ委員長トス
- 第四條 外匯基金管理委員會開會ノトキハ委員長主席トナル
- 第五條 外匯基金管理委員會ハ委員長之ヲ招集シ議案ノ議決ハ全會一致ニ依ル
- 第六條 外匯基金管理委員會ノ議決ニシテ財政部長ノ採擇シタルモノハ財政部ニ於テ速カニ其ノ實施ヲ圖ルモノトシ中央儲備銀行ノ

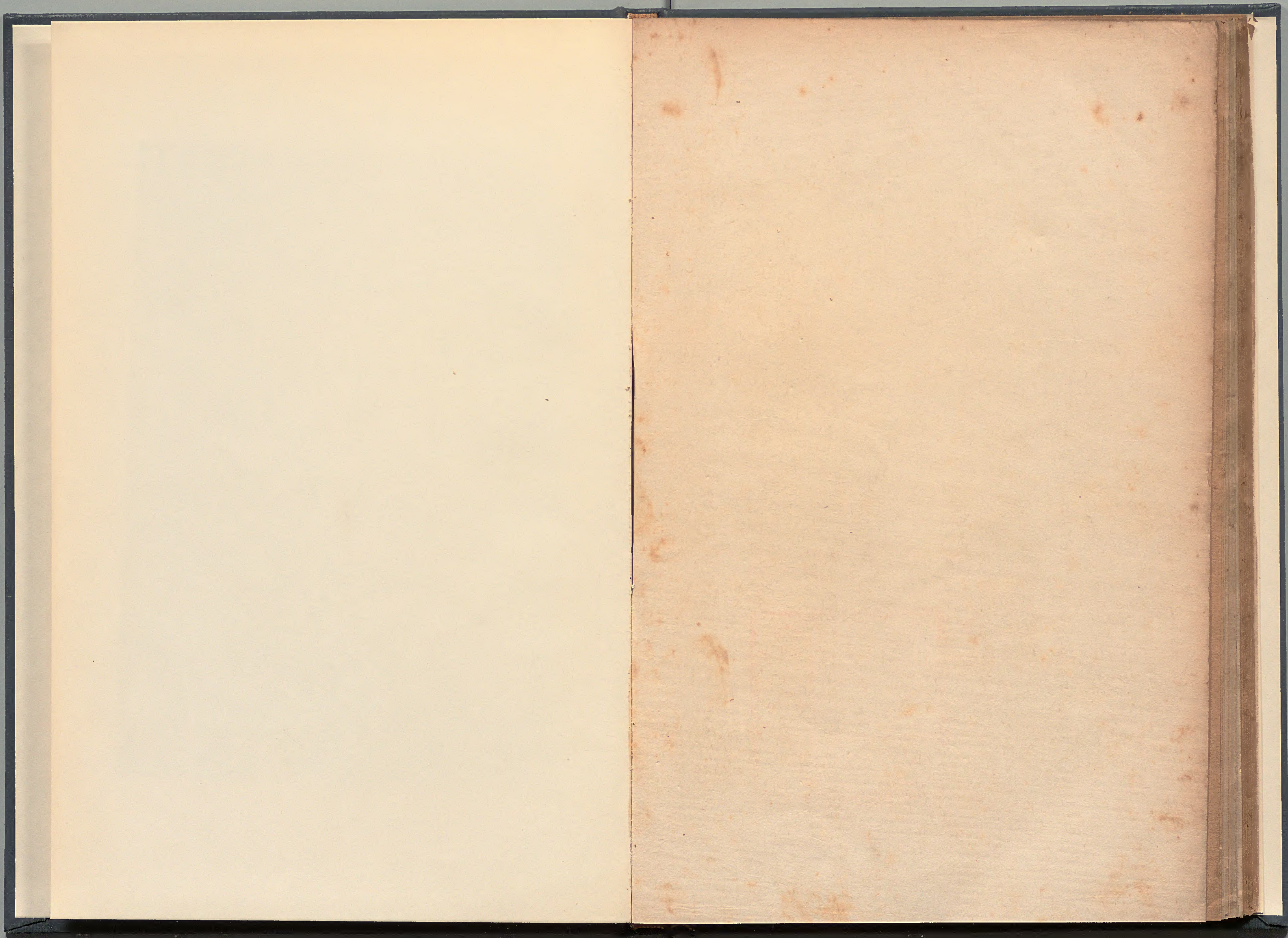
業務ニ關スルモノニ付テハ同行チシテ遲滯ナク之ヲ實行セシムル  
モノトス

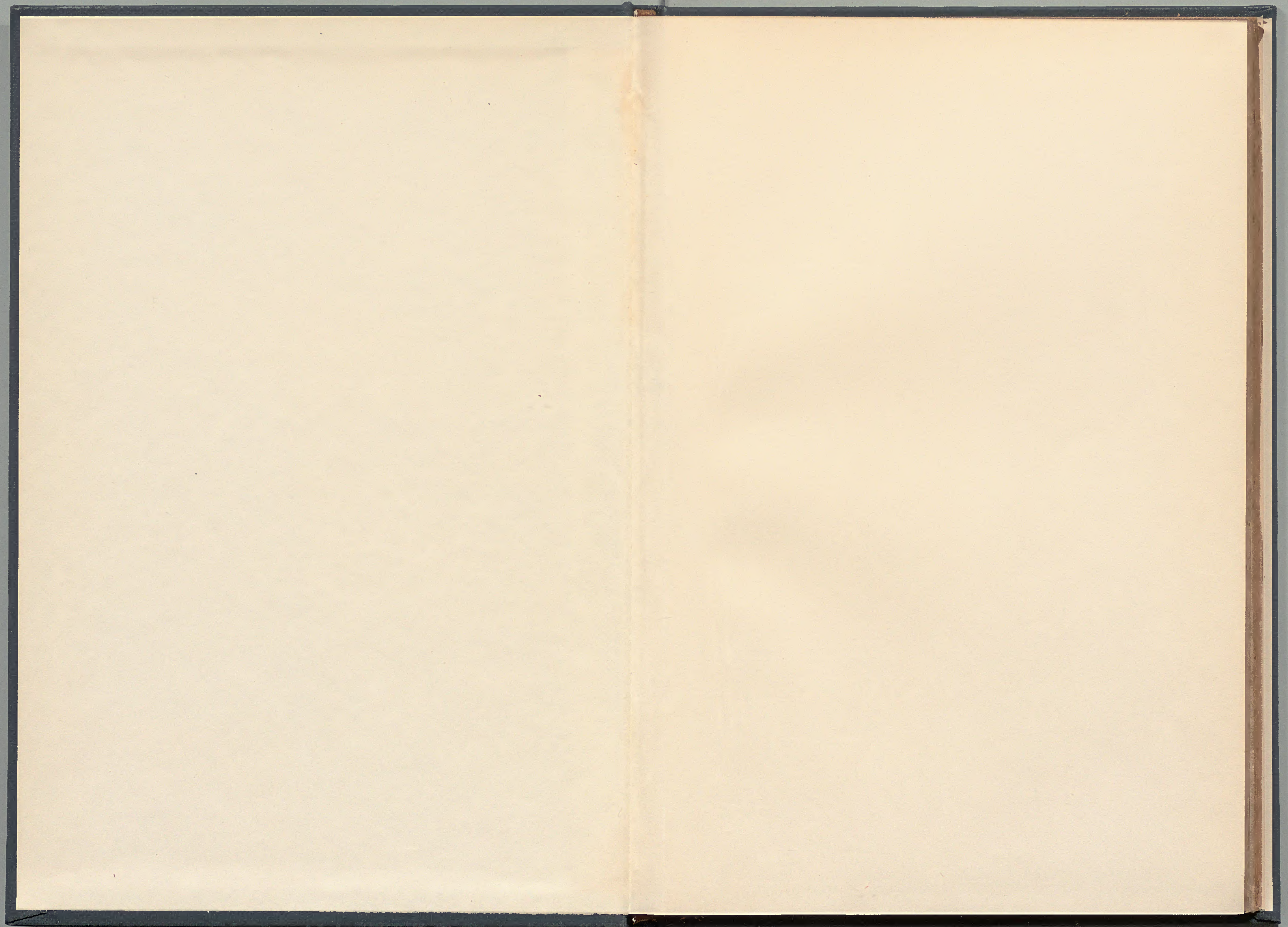
第七條 外匯基金管理委員會ニ秘書一名、事務員若干名ヲ置ク

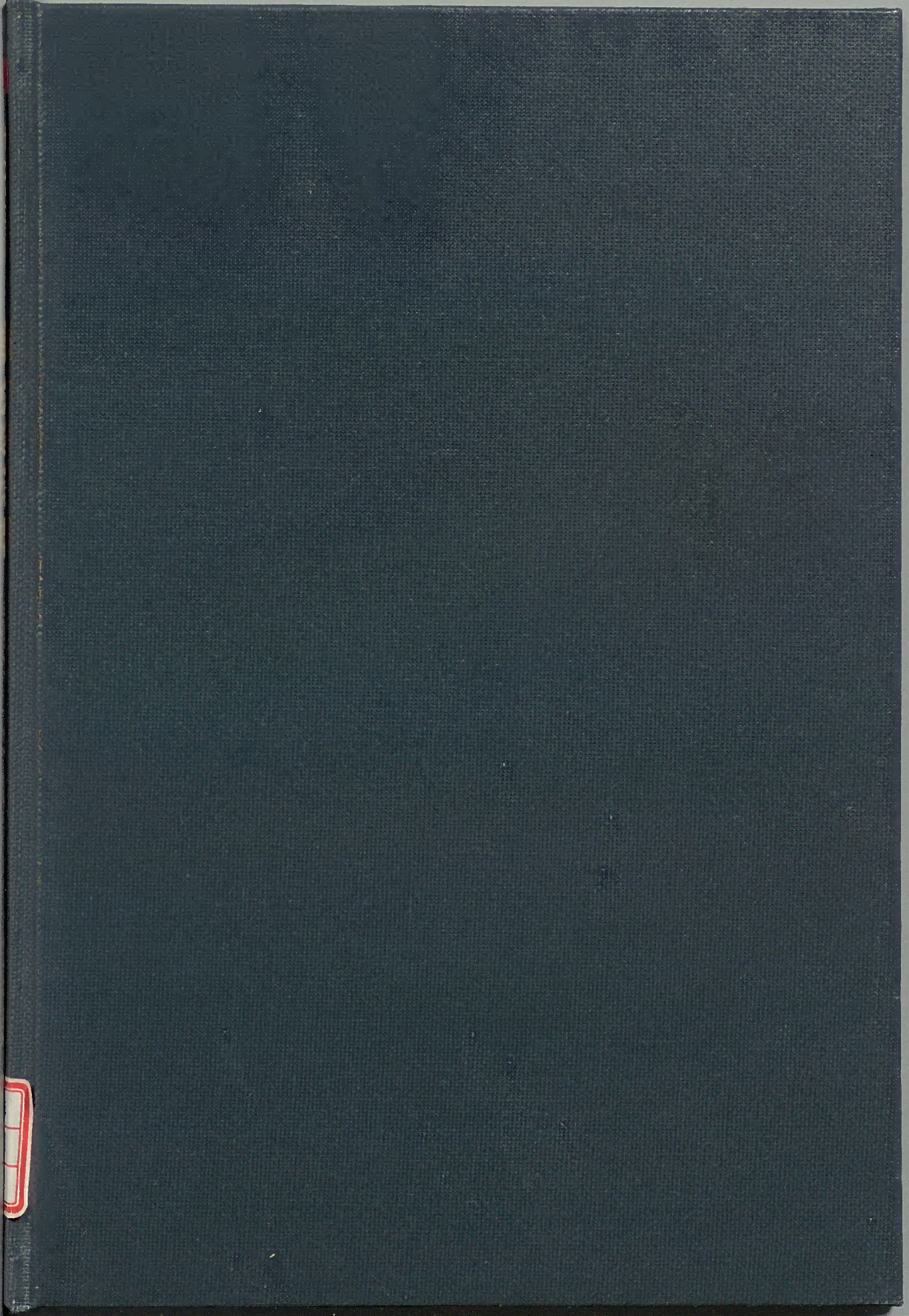
第八條 外匯基金管理委員會ノ經費ハ財政部ヨリ之ヲ支給ス

第九條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス









1